

神異經曰犯人則病畏爆竹聲宗懷乃云爆竹燃草起於庭燎風俗通謂起於庭燎不應濫王者也按周
 衰之末大夫而僭天子庶人而服侯服者皆是也奚獨燎明爲不然乎懷之所記理或然矣苑石湖集
 臘月村田樂府爆竹行叙曰此他郡所同而吳中特盛惡鬼蓋畏此聲古以歲朝而吳以二十五夜熙
 朝樂事曰除夕人家祀先及百神架松柴齊屋舉火焚之謂之焮盆詳談探餘煙焰燭天爛如霞布爆竹
 鼓吹之聲遠近聒耳帝城景物略曰除夜以松栢枝雜柴燎院中曰燒松盆焮歲也通雅曰除日焚
 柴曰焮盆月令通考吳中風俗除日送舊神焚松柴謂焮盆或曰以松栢桃杏爇火曰生盆孫愐曰焮粉
 滓也韻會曰粥凝歲時雜記除夕作蕢燭以麻焮濃油如庭燎律有元日油焮之義今焮盆也或作靱音
 莘青藤曰俗謂之喪盆或燒冬青樹武林舊事南郊用之又元夕有蕢燭焮盆

〔諸國年中行事大成正一凡〕十五日爆竹并吉書揚略○中 三笈杖又三毬打左義長とも或は三元張と

も書三元張より起るか徒然草に云さざちやうは正月に打たる毬打を眞言院より神泉苑へ出
 して焼よし侍り唐土にては毬打を蚩尤が頭に比して是を弄す日本又毬打を焼て旦旦を伏す
 るならんと云々止牟止の正字詳ならず爆と云字火烈と注してハタメクヒバシルと訓む左義
 長を爆す吉書菱葩を爆といふは焼といふ字を忌はなり俗に誤て物を焦すを焼爆といふに同
 じ

〔徒然草〕さざちやうは正月に打たるさざちやうを眞言院より神泉苑へ出して焼あぐる也法成
 就の池にこそとはやすは神泉苑の池をいふなり

〔武家嚴制録〕禁裏臨時之御條目

覺○中

一左義長御作法までにちいさく被仰付并盆之燈籠かるくいたし上られ候様に可然事略○中
 右條々相守之油斷有間敷候若猥之儀被承之於無言上者面々可爲越度者也